

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	安城市中心市街地拠点整備事業・目	階数	地上4F
建設地	愛知県安城市南明治第二土地区画	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	1人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年4月 予定	評価の実施日	2016年5月1日
敷地面積	1,881 m ²	作成者	船水賢
建築面積	1,507 m ²	確認日	2016年5月1日
延床面積	6,016 m ²	確認者	船水賢



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★★★★★

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.9

生物環境 まちなみ 地域性・

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.6

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">6.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">15.9 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">5.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>再利用レンガ(外構床)</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>再利用レンガ(外構床)</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	5.0	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	4.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	4.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	4.0	-	-
1.3 吸音				-	-	5.0	-	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	3.0	-	-
2 外皮性能				-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	5.0	-	-
2.3 空調方式				-	-	3.0	-	-
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率				-	-	5.0	-	-
2 方位別開口				-	-	5.0	-	-
3 昼光利用設備				-	-	5.0	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御				-	-	4.0	-	-
3.3 照度				-	-	4.0	-	-
3.4 照明制御				-	-	5.0	-	-
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	5.0	-	-
2 アスベスト対策				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	5.0	-	-
2 自然換気性能				-	-	4.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	5.0	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	5.0	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	4.0	-	-
3 バリアフリー計画	独自			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	4.0	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
3 衛生管理業務				-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				2.7	0.52	-	-	2.7
1 耐震性				3.0	0.48	-	-	-
2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-	-
3 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				2.7	0.33	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			3.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.23	-	-	-
2.4 信頼性				2.0	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備				-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				-	-	-	-	-
3 電気設備	②			1.0	0.50	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	0.50	-	-	-
5 通信・情報設備				-	-	-	-	-
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				2.7	0.48	-	-	2.7
1 階高のゆとり				2.2	0.31	-	-	-
2 空間の形状・自由さ			空間の確保を行っている	1.0	0.60	-	-	-
3 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	5.0	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.38	-	-	-
1 空調配管の更新性	②			-	-	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	0.13	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.13	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.27	-	-	-
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.27	-	-	-

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	周辺歩道と同じ再利用レンガを一部使用予定		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.5	0.30	-	-	2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=-		-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)		照明は非常照明以外は全てLED器具を使用		5.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価				3.0	0.29	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水				3.0	0.15	-	-	3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.40	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.60	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				2.4	0.63	-	-	2.4
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.24	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				1.0	0.20	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自			2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.22	-	-	3.0
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	1.00	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	
3 冷媒				-	-	-	-	
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
ライフサイクルCO2概算値:53%	①			4.8	0.33	-	-	4.8
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない		2.3	0.33	-	-	2.3
2.2 温熱環境悪化の改善				5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.33	-	-	3.0
1 騒音	独自			3.0	0.40	-	-	
2 振動	独自			3.0	1.00	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制								
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.20	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

安城市中心市街地拠点整備事業・民間収益施設・駐車場棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.10	
② 資源の有効活用				2.6
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:6.7%/建物緑化:15.9%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	5.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	再利用レンガ(外構床)
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	再利用レンガ(外構床)

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 安城市中心市街地拠点整

計画上の配慮事項	
総合	外壁のない自走式駐車場建築であるが、公共の広場に面しては一部壁面緑化を設置して、内外空間の環境への配慮を行っている。
Q1 室内環境	該当なし
Q2 サービス性能	耐用性・信頼性、及び対応性・更新性は、駐車場としては概ね標準的な仕様としている。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺歩道と同じ再利用レンガを一部使用予定としている。 壁面緑化を一部採用している。
LR1 エネルギー	外壁がなく、熱負荷や設備システムについては評価していない。自然エネルギーは特に採用していない。
LR2 資源・マテリアル	緑化用の散水栓に節水コマを採用している。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用しておらず、建築として大気汚染物質を発生しない。
その他	